

# 県北NEWS グローカル版

栗原市

## 慶応大と協定締結

### 細倉地区で「コ・モビリティ」実験

【栗原文局】慶応大が進めている新しい地上移動システムによる社会づくりの研究「コ・モビリティ社会の創成」プロジェクトで、実証研究地に選ばれた栗原市で先月三十一日、同大研究センターと同市との連携協力締結式が行われ、研究推進に向けた協力体制を確認した。

### 遠隔操作の電気自動車

「コ・モビリティ」とは「ユニティ、モビリティな」造語。研究は、情報技術「コラボレーション」や「コミ」その言葉からくる同大の「と電気自動車を組み合わ



提供: 慶應義塾大学

慶応大がイメージしている電気自動車

せ、だけれどが自由に安全に交流できる移動手段を開発し、新しいコミュニティ社会の構築を目指す。具体的イメージとしては、お年寄りが一人乗りの電気自動車に乗り、タッチパネルを押せば遠隔操作により自動で病院などの目的地に移動。そのまま診察を受けられるなどの活用を描いている。

栗原市鷲沢細倉地区にある遊休施設「細倉マインプラザ」のゴーカート場で、移動体の走行実験を行う予定で、当面は二〇〇八年度から二年間実施して基礎データを集める。協定締結式が市役所講堂で開かれ、幹部職員や

県などの関係者約六十人が見守る中、研究センター所長の川嶋弘尚教授と佐藤勇市長が協定書を取り交わした。



協定を結び握手を交わす佐藤市長(左)と川嶋教授

実証研究地は、青森市「四方所」が候補になっているが、協定を結んだのは栗原市が初めて。

佐藤市長は「栗原市を選んでくれたことに感謝します。研究成果が実るよつに市一丸となって支えていきたい」と全面的に応援していく考え。川嶋教授は栗原市の熱意未来への挑戦する考え方は私たちのプロジェクトと一致する。市に協力できることもあると思う。ともに勉強していきたい」と話した。川嶋教授によると、今年夏ごろまでには移動体のプロトタイプ車両が完成し、細倉地区にお目見えする予定。一般公道を使用した走行実験も構想に描いている。